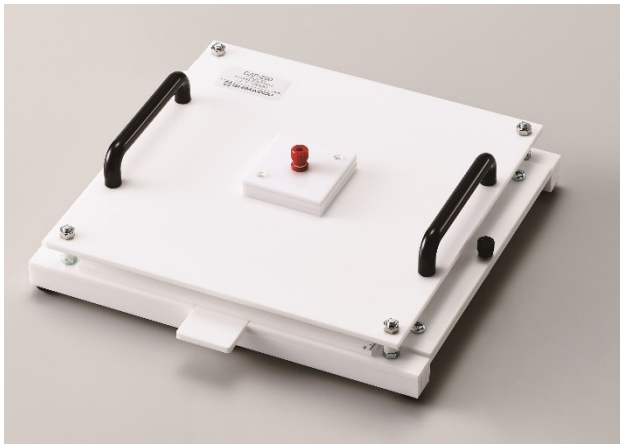
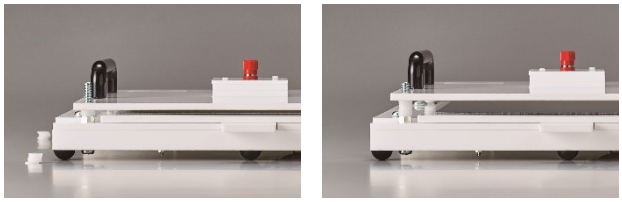
SHIMADZU
Excellence in Science

コンデンサ実験器 CAP-200

従来品に比べ実験精度が大幅UP！

- 四隅のスペーサで極板間隔を1mm毎に変更する方式のため、従来製品のねじ上下方式に比べ実験精度が向上しました。
- 極板は樹脂板にアルミ電極を貼り付けた構造になっているため、直接アルミ電極部に触れることなく実験が可能です。
- 極板間距離を変える実験や対向面積を変える実験を簡単に行うことができます。



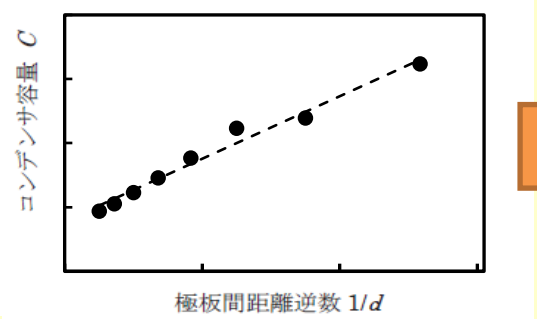


極板間隔はスペーサで
調節平行に上下できます。

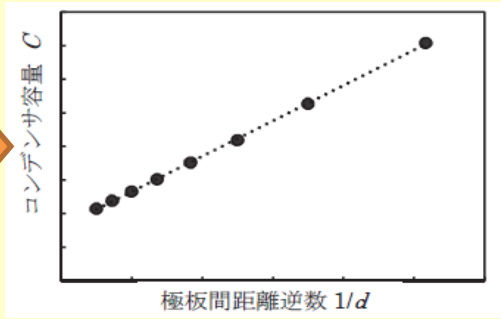
Point

①極板間隔はスペーサで調節。従来品に比べて実験精度が大幅に上昇！

従来品は中央のねじを使って極板を上下させるため極板変更度の調整が難しく，測定結果に大きな影響を及ぼしていました。新しいコンデンサ実験器は厚さ1mmのスペーサを重ねることで，平行を保ったまま3~10mmまで1mm毎の設定が可能になりました。



【従来品】コンデンサ実験器CAP-100での実験結果



【新製品】コンデンサ実験器CAP-200での実験結果

②スライドバーで対向面積を変更！

アルミ極板を直接触ることなく対向面積を変更することができます。

③極板の対向面積の計算が簡単！

極板形状が200mm角の正方形のため，下側の樹脂板に刻印された目盛を読むことで，引き出した量から簡単に対向面積を求められます。

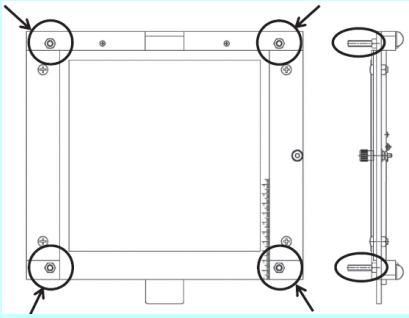
株式会社 島津理化

SHIMADZU
Excellence in Science

実験例

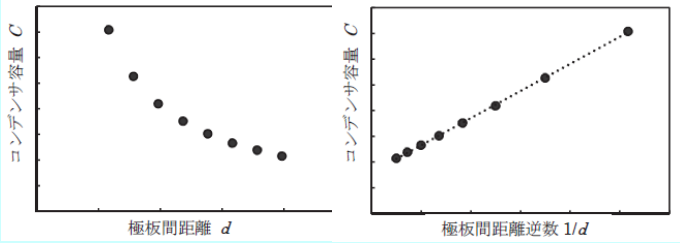
① 極板間距離とコンデンサ容量の関係

1．d=3mm基準スペーサのみをはめ，下電極板を完全に締まった状態（目盛がゼロの位置）にします。



2．赤黒端子にテスタなどの容量計を接続し，コンデンサ容量を測定します。

3．付属の間隔変更用スペーサ（d=1mm)を使い極板間距離を1mmずつ変化させたときの容量を測定します。



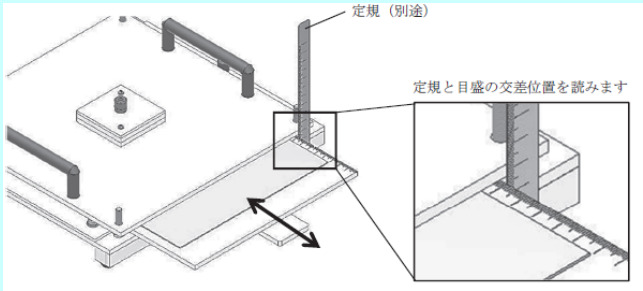
結果： 1/dとCは比例関係になる

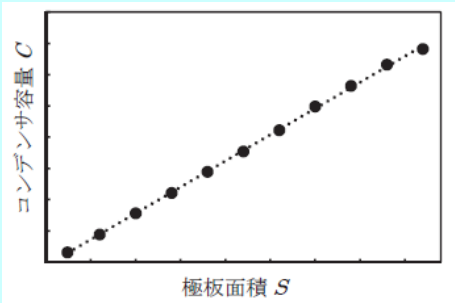
② 極板面積とコンデンサ容量の関係

1．d=3mm基準スペーサのみをはめ，下電極板を完全に締まった状態（目盛がゼロの位置）にします。

2．赤黒端子にテスタなどの容量計を接続し，コンデンサ容量を測定します。

3．上電極板と枠に定規（別途）を当てて交差位置の目盛を読み，スライドバーで対向面積を変化させたときの容量を測定します。





結果： SとCは比例関係になる

Cat.No	133-501
品　名	コンデンサ実験器　CAP-200
価　格	¥95,000（税込¥104,500）
極板材質	アルミニウム　A5052
極板間距離	3～10mm
極板引出し量	10 cm
接続端子	バナナプラグ用端子(赤黒 各1)
大きさ	全体:W260×D290×H80mm　極板:W200×D200×厚さ1mm
付属品	d=3mm基準スペーサ 4個　間隔変更用スペーサ 28個

理科製品に関する技術的なご相談は島津理化 HP お問い合わせフォームから https://www.shimadzu-rika.co.jp/contact/index.html

株式会社 島津理化 https://www.shimadzu-rika.co.jp/

理化教育事業部　TEL 03-6854-0274

支　店　東　京　TEL 03-6854-0210　大　阪　TEL 06-6454-3433
営業所　札　幌　TEL 011-758-0788　仙　台　TEL 022-380-8950
　　名古屋　TEL 052-857-9176　福　岡　TEL 092-271-1418
海外事業部　TEL 03-6854-0261

本　社　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32　出版クラブビル

ES-3772504-D